『発掘宇治'19』

令和元年度　発掘調査・文化財速報

宇治市街遺跡発掘調査（4～7月）

文化財見学会　松殿山荘（12月）

庵寺山古墳公開（5・11月）

大幣神事（6月）

史跡宇治川太閤堤跡整備工事

宇治市歴史まちづくり推進課

宇治市街遺跡（川西地区）

宇治市街遺跡は、市内最大規模の集落遺跡です。現在の宇治市街地とほぼ重なり合っており、その様相は宇治の発展の歴史がそのまま遺跡になったものといえます。宇治市街遺跡は毎年、大小にかかわらず、調査されています。令和元（2019）年度には、宇治橋通り沿いの一角を発掘調査しました。これまで中宇治で実施された調査の一部を紹介します。

古くから残る道

宇治市街遺跡（川西地区）の範囲

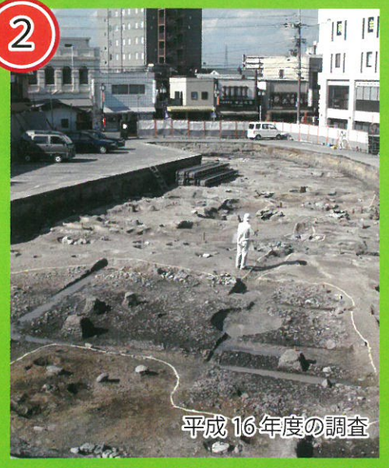
過去に調査された主な場所

1

平成17年度の調査

古墳時代～奈良時代の遺跡と平安時代以降の遺跡がみつかりました。かまどを持つ竪穴住居や建物の柱跡、土坑といった集落の痕跡と別業邸宅跡や苑池です。古墳時代、この周辺は集落を営めるような環境だったのだと考えられます。また、これまでの予想と異なる場所に別業邸宅が、想定よりかなり広域に存在する可能性が高まりました。

2



平成16年度の調査

古墳時代中期から江戸時代の遺跡がみつかり、特に平安期の苑池やみち、礎石建物、井戸といった生活痕が確認されました。このみちは現在の宇治橋通りに相当します。みちより北に庶民層の集落空間、南に貴族の別業空間が展開したとされています。

3

平成14年度の調査

平安時代後期～室町時代の遺跡が検出されました。邸宅跡と推定される柱跡や溝跡、井戸跡、池跡がみつかっています。特に、平安期の建物群が南に面して建てられており、現在の伍町通りが西に続くことを窺わせます。鎌倉期以降の建物は現在の宇治橋通りに合わせて作られていました。

4

令和元年度の調査

平安時代末期～江戸時代中期の遺跡が確認されています。被熱痕や箱型漆喰遺物、柱穴、溝、井戸、土坑、掘り込みがみつかりました。中世には集落や墓域が展開し、近世には、被熱痕や箱型漆喰遺物から製茶施設が営まれてきたと推察されました。

5

平成30年度の調査

平安時代～鎌倉時代と江戸時代の遺跡がみつかり、池跡や柱穴、溝が検出されました。池跡や柱穴は庭園跡の可能性が高く、建物から庭園を望むようなつくりだったと推察できます。江戸期の住居跡は宇治代官所跡に関するものと思われます。

発掘宇治
令和二年三月二九日発行
宇治市歴史まちづくり推進課
〒611-8501 京都府宇治市宇治琵琶33番地

松殿山荘と松殿

JR木幡駅の東方七〇〇メートルほどの丘陵上にある松殿山荘は、大阪で弁護士業を営んでいた高谷宗範が、自らの考えに基づく茶道の世界を実現するため築いた山荘です。

その場所は、平安時代末期の藤原摂関家の当主藤原基房の別業（別荘）松殿の故地と伝わり、山荘の周囲を巡る土塁はその名残りと言われます。

周辺は、藤原氏一族の墓地が展開し、宇治陵墓群と呼ばれます。また、松殿山荘の東方には藤原師実が営んだ別業京極殿の跡地があり、西北八〇〇メートルほどには、藤原道長が一族の菩提を弔うことを目的に営んだ浄妙寺跡があるなど、一帯には藤原氏関係の遺跡が展開しています。

松殿山荘で宗範独特のデザインに彩られた建築や庭園に触れるとともに、その周辺に広がる藤原氏の遺跡を偲び、平安時代の藤原氏の栄華に思いを馳せるのも一興かと思います。

松殿山荘の大玄関

松殿山荘の庭園

続 史跡宇治川太閤堤跡は今！

太閤堤は、安土桃山時代に豊臣秀吉が宇治川・淀川に築いた堤防です。平成19年に宇治橋下流の右岸でその一部が発見され、平成21年に国の史跡に指定されました。現在、史跡公園として整備を進めています。

2019年度には、「史跡（A）ゾーン」の遺構復元の一環として、再現遺構の着色工事を実施しました。また、情報発信する「交流ゾーン」では、お茶と宇治のまち交流館の建設工事に着手しました。次年度以降も引き続き、整備していく予定です。

再現遺構の着色工事

交流館の建設工事